

# 梓川高等学校だより

発行 長野県梓川高等学校 第23号 平成27年3月7日 長野県松本市波田10000-1 tel.0263-92-2119 fax. 0263-91-1027

URL <http://www.nagano-c.ed.jp/azusa-hs> Eメール [azusa-hs@nagano-c.ed.jp](mailto:azusa-hs@nagano-c.ed.jp)

## 平成二十六年卒業式

三月七日(土)に平成二十六年卒業式が行われます。この一年間、梓川高校の中心となり活躍した三年生がそれぞれの道へ旅立ちます。

### 三学年担任より卒業生へ

「これから応援よろしくお願いします。』とは、僕は絶対に言いません。応援していただけるような選手であるために、自分がやらなければならないことを続けていく。…話題となったイチロー選手のマーリンス入団会見のコメントです。そこからは、自分の甘えを許さない、大きな決意と覚悟を感じました。

人間誰しも生活環境が大きく変わる時があり、高校卒業は、皆さんがこれまでに経験した中でも最も大きな転機だと思います。期待以上に不安が大きいのではないのでしょうか。そんな時だからこそ、敢えてイチロー選手の言葉を送ります。「ちいさいことをかさねることが、とんでもないところに行くただひとつの道。」どんな環境にあつても自分のできる限りの努力をして、各々の夢を実現してもらいたいと願っています。

#### 3年1組

林 恭子 先生

卒業おめでとう。入学当初はあどけない様子だった皆さんも、高校生活を送る中で、自然と梓川高校の親しみが沸いているのではないのでしょうか。

よく、「就職したら、まず三年取り組んでみよう」と言われますが、高校生活での皆さんの成長を見ると、それはあながち間違っているのではないのかもしれないと思えます。

#### 3年2組

依田 康孝先生

入学式の日から、叱つてばかりの毎日だったようにも思いますが、本当は二組のみんなのことが大好きでした。

これからも皆さんが、それぞれの場所で活躍してくれることを信じています。自分の力を信じて進んでください。お元気で。

#### 3年3組

堀内 和代先生

卒業おめでとう。いよいよそれぞれの道に向かつて、一步を踏み出します。みなさんはたくさんの人に支えられ、今日まで過ごしてきました。感謝の気持ちを忘れずに、他人を大切にしましょう。結局は自分を大切にすることにつながります。どんなことも、巡り巡って自分に返ってくるのです。まずは自らプラスの発信をしてみましょう。これからの人生、今まで以上に辛い事がたくさんあると思います。そんな時に運や状況のせいにして、現実を目をそむけたら、同じことを繰り返してしまいませんか。謙虚に反省し、現実から逃げずに受け入れる勇氣を持ちましょう。何があっても腐らないで前を向いて歩いていたら、無駄な経験は何もなかったと、いつかわかる日が来るはずですよ。応援しています。

#### 3年4組

藤原 牧人先生

三年生の諸君、まずは卒業おめでとうございます。この高校生活、皆さんはどのような思い出がありますか。おそらく「楽しい」とばかりだった人は少ないでしょう。私も担任をして、楽しいことばかりではありませんでした。辛いことや嫌なところも感じてきました。そんなことがあつても毎日が新しく始まり、全てが過去に、思い出になっていくことは当然ですね。誤解を生むかもしれませんが、私は思い出や過去のことは、あまり重要ではないように感じています。当然過去のことには学ぶことも大事ですが、やはり「今、これから何をやるのか」ということが大切だと感じます。なぜなら過去のことと、これから起こることはまったく同じではないからです。その時、君が「どう考え、どう動くのか」が重要になってくるのではないのでしょうか。

高校生活で学んだことは、ほんの一部です。これから諸君が本当の意味で「自分で考え、動き」一人一人が素晴らしい人生を作り上げていく欲しいです。

最後にまじめなことだけが取り柄だった藤原から言葉を贈ります。

花には水を、人生にはユーモアを

さようなら

### たけやさんよりメッセージ

長年、梓川高校の購買をつとめてくださったたけやさんが本年度をもってお辞めになられます。私たちのためにたくさんのお食糧を「用意してくださり、本当にありがとうございました。」

梓川高校のみなさんへ

購買を利用して頂き有難う御座いました。この度三十年近く続けてきた売店を閉めることになりました。みなさんの昼ご飯を販売していて心配になった事は、朝ご飯を食べて来たのかなと思ったり売店の食べ物だけでは、「栄養が足りてないので家でしっかり食べてね」と親の気持ちになりました。そのような思いから段々と売店で売る種類が増えました。

なかなか高校生と話す機会がないなか、売店でのちょっとした会話がおじさん、おばさんには時折子どもであつたり孫のような気持ちで話をしました。

照れながら真剣に親に話しぶらい話や、友達の話、進路の話など「頑張らなくてはいけないよ」「でも無理しちゃだめだよ」と話しましたね。最後に梓川高校で泣いて、笑って、人生の壁にぶつかつても自分の栄養にしてガンバレ、本当にありがとうございました。

安藤 武司・久美